

(様式1)



山口市

## 報道資料

平成30年2月13日

1	件名	第11回 大内氏歴史文化研究会 講演会 の開催について
2	日時	平成30年3月17日(土) 13:30~16:00(開場13:00~)
3	場所	山口県立山口図書館レクチャールーム 山口市後河原150-1
4	内容	<p>日本中世史研究の第一人者が、洛中洛外図屏風を読み解きながら、大内氏と京都との関係に迫ります。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・講師 小島 道裕(こじま みちひろ)</li><li>・演題 洛中洛外図屏風と「小京都」</li><li>・主催 山口市教育委員会</li></ul> <p>※聴講無料(申込不要)、手話通訳・要約筆記あり</p>
5	出席者	
6	問い合わせ	教育委員会事務局 文化財保護課 (担当:丸尾) TEL 083-920-4111

第11回 大内氏歴史文化研究会 講演会

# 洛中洛外図屏風と 「小京都」

参加無料  
申し込み不要

講師：小島道裕 国立歴史民俗博物館・  
総合研究大学院大学教授

平成30年 **3月17日(土)** 13:30~16:00  
(開場 13:00)

山口県立山口図書館レクチャールーム  
(山口市後河原150-1)

手話通訳・要約筆記あり

主催/山口市教育委員会 問い合わせ/文化財保護課 電話 083-920-4111

上：重要文化財「紙本着色洛中洛外図屏風(歴博甲本)」(部分, 国立歴史民俗博物館所蔵) 下：大内氏館跡展望

「大内義興肖像額」  
(部分, 山口県立山口博物館所蔵)



# 洛中洛外図屏風と「小京都」

洛中洛外図屏風は、室町時代後期から江戸時代にかけて盛んに作られました。そこには、京都の自然や名所、そして人々の営みが細かに描かれています。

このような京都の絵が描かれた背景には、地方の人々が京都へ寄せる眼差しがありました。洛中洛外図屏風の初見史料も、越前の戦国大名朝倉氏が京都の絵師に注文したというものです。戦国大名たちが、自らの領国に都市を造ろうとする時、モデルにしたのは京都だったのです。各地に文字通りの「小京都」として城下町ができていったことと、洛中洛外図屏風が描かれたことには、密接な関係があったわけです。京都と深い関係のある大内氏も、このつながりの中にいたこととなります。

現存最古の洛中洛外図屏風「歴博甲本」をはじめ、いくつかの洛中洛外図屏風を取り上げて、その歴史資料としての「読み方」を考え、また京都に倣った各地の都市遺跡にも目を向けて、「小京都」の時代をさぐってみたいと思います。

## 講師略歴

小島 道裕 (こじま みちひろ)

国立歴史民俗博物館・総合研究大学院大学教授

1956年神奈川県生。

京都大学大学院文学研究科博士課程単位取得。文学博士。

京都大学文学部助手等を経て、現職。

専門は日本中近世史で、中世後期～近世初頭の都市を主な対象に、文献史学と歴史地理学的方法や考古学の成果を融合させた研究、博物館資料の研究・活用などを行っている。

著書に、『戦国・織豊期の都市と地域』（青史出版）、『描かれた戦国の京都—洛中洛外図屏風を読む—』（吉川弘文館）、『洛中洛外図屏風—つくられた〈京都〉を読み解く—』（吉川弘文館）、『信長とは何か』（講談社）、『中世の古文書入門—読めなくても大丈夫!—』（河出書房新社）、ほか。



JR山口駅から徒歩約15分です。  
周辺の駐車場には限りがございますので、  
できるだけ公共交通機関をご利用ください。

